

博物館だより



No.128

平成29年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示・ここに注目!

小宮豊隆資料

「漱石コレクション」Vol.15

今年夏は夏目漱石生誕150年。没

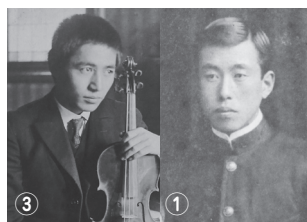
後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事は注目の的、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。

●小宮ほか漱石門人等写真群

先月号でも紹介した明治中期の写真ブームは、学生たちがその主な担い手で、友人との集



▲「瀨石山脈」と呼ばれた門人たちの姿が
あちこちに映る写真群



▲写真に現れた「三四郎」キャストのモデルとされる人物たちの肖像。上段右端から番号順に次の通り
①小川三四郎 →小宮豊隆
②広田先生 →夏目漱石(岩元 靖の説もある)
③野々宮宗八 →寺田寅彦(ボースは「水島寒月」風)
④佐々木孝次郎 →鈴木三重吉

◆平成29年度 博物館企画展 第11回向井澄男写真展

当館では7月19日(水)から8月20日(日)まで、故・向井澄男さんの写真展を開催します。

向井さんは永年にわたって京築の祭や風物を撮り続けた写真家で、平成15年に74歳で亡くなられましたが、数万点におよぶ貴重な遺作はご遺族から当館に寄付されました。以後、当館では毎年「不動」の共通タイトルで、向井さんが捉えた、ふるさとの豊かな暮らし

不動Ⅺ — 豊前神楽 —

しと文化をビジュアルに追う写真展を開催しています。

11回目を迎える今回のテーマは「豊前神楽」。昨年、国の重要無形民俗文化財に指定された、ふるさとを代表する民俗芸能の輝く瞬間を捉えた映像をご紹介します。

- 場 所 当館展示室
- 観覧料 常設展の観覧料
(大人1000円・高校生以下は1000円)でご覧いただけます。



▲下伊良原神楽講による御先(1997年)。ダム工事に伴う地域再編で現在は見ることはできなくなった貴重な姿

◆博物館NEWS

7月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
7月1日(土) 9時30分

【古文書講座】
7月8日(土) 10時00分

【古典かな講座】
7月15日(土) 9時30分

【みやこ学講座】
7月22日(土) 10時00分

※日程等変更となる場合があります

博物館友の会で「楽習」を!

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに見学会や各種イベントを行っています。関心のある方ならどなたでも参加OK。お気軽にお申込みを!

♪入会の方法

博物館窓口で会費を納入下さい

♪年間会費

個人会員 3000円

家族会員 1名 2000円

♪お問い合わせ先

博物館 ☎33-4666

5月の業務日誌から

5月18日(木)、みやこ町に伝わる神楽が国の重要無形民俗文化財に追加指定され、指定証書が交付されました。町の神楽を「ニッポンの宝」として、これからも地域全体で応援してゆきたいですね!

5月28日(日)、博物館友の会の定期総会が開かれ、山内公二先生を講師に「『新築風土記』あれこれ」と題した記念講演が行われました。風土記編纂時のエピソード話をユニークに語って頂きました。



▲先生からみやこ町の魅力を熱心にお話しいただきました



▲豊前神楽の伝承を続ける5団体に指定証書が渡されました

みやこの歴史発見伝 99

古代山城「御所ヶ谷神籠石」

― 古代東アジアの緊張が生んだ、山上の要塞 ―

「神籠石」のなぞ

「神籠石」という史跡をご存じですか。神籠石は全国に十数ヶ所あり、その名が知られるようになったのは明治三二（一八九八）年に、久留米市高良山の山腹にめぐる列石が神聖な場所を区切る遺構であると紹介されたことがきっかけです。

現在、神籠石は古代の山城として理解されていますが、過去には性格や機能をめぐり多くの学者が議論し、その



▲御所ヶ谷神籠石の列石(御所ヶ岳山頂付近/犀川木山)

論争は「神籠石論争」と呼ばれました。論争は、列石を前述のように神域の境界とする「霊域（神域）説」と、古代

の山城の城壁跡とする「山城説」とに分かれ、戦後まで続きました。昭和三九（一九六四）年に行われた佐賀県武雄市おつほ山神籠石の発掘調査の結果、列石が城壁の基礎石であることなどがわかり、神籠石は「山城跡」であると決着がつかしました。しかし、文献資料に神籠石についての記述がないため、いつ、だれが、何のために築城したのかは分かっていません。学者によって意見は分かれるところではありますが、築城はおおむね七世紀だと言われています。

古代山城が築かれた時代

このころ朝鮮半島では、唐・新羅の連合軍によって日本と親交の深い百済が滅ぼされます。百済の遺臣に救援を求められた日本は朝鮮半島に援軍を送りますが、唐・新羅の連合軍に百済と日本軍は大敗しました。これが六六三年に起こった白村江の戦いです。日本は迫りくる大陸からの脅威に備え防人や烽火を配置し山城を築きました。西日本各地にある古代山城が当時の緊迫した国際情勢を表しています。

御所ヶ谷神籠石

御所ヶ谷神籠石はみやこ町勝山・犀川、行橋市にまたがる御所ヶ岳（標高二四六・九m）の山頂から山腹に展開する国指定の史跡です。

御所ヶ谷神籠石には城内へ入るための城門跡が七ヶ所、礎石建物跡、貯水池、尾根や谷に周囲約3kmの城壁などがあります。城壁は列石を基礎石とし、その上に版築技法（堰板を用い土と砂を交互に一層ずつ固く突き固める技術）を用いて土を積み重ねています。

みやこ町側にも城壁がめぐり、列石や第二西門、南門、第二南門などがあります。



▲第二西門の石組(勝山大久保)

御所ヶ谷神籠石の位置

では、なぜ御所ヶ谷神籠石はこの場所に築かれたのでしょうか。

全国に二十数ヶ所ある古代山城の多くは古代の官道の近くに位置しています。このことから古代において山城は交通の重要拠点にあったと考えられています。御所ヶ谷神籠石も例外ではなく、北には大宰府と豊前国府を結ぶ官道、南にも筑前国と豊前国を結ぶルートがあります。さらに東へ5kmほどに豊前国府・国分寺、北へ約7kmに要港・



▲御所ヶ岳(左/北側の谷を特に「御所ヶ谷」という)と馬ヶ岳(右/双こぶの山)

草野津などがあり、以上のことから豊前国の中枢でかつ、陸路と海路をにらむ戦略的要地に位置していたことがわかります。

ちなみに御所ヶ谷神籠石の東には三年前の大河ドラマ「軍師官兵衛」にも出てきた中世の山城・馬ヶ岳城があります。馬ヶ岳城がこの場所にあったことは、この場所が古代から変わらず中世の時代も京都平野をはじめ豊前の要衝であったことにはかたがたありません。

御所ヶ谷神籠石は山頂から京都平野を一望することができ、東にある馬ヶ岳城跡と共にトレッキングコースとしても楽しむことができます。

歴史に想いを馳せつつ、一度ゆっくりと歩いてみるのはいかがでしょうか。

(天野詩織)